

社会的事象の見方・考え方を育てる～主体的な学びをつくる授業づくり～

平成 28 年 8 月、次期学習指導要領の改訂を前に、中央教育審議会教育課程部会において「審議のまとめ」が示された。

公民としての資質を育成するという総括的な目標のもとに、

- ・「社会的な見方・考え方を働かせ」
- ・「課題を追究したり，解決したり」→よりよい社会の形成に参画する資質・能力を育てる。

現行の学習指導要領の方向を引き継ぎ，方策を明確化・具体化して推進するとされている。

本校では，教育活動全体で（表現する）目標をふまえ，社会的事象の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習の充実を図ることを目指し，授業改善を行う。

<研究の方向性>

1 単元全体を見通した知識の構造図

- ア. 知識の構造化による教材研究を進める
- イ. キーワードによる構造的な板書を工夫する
- ウ. 知識と知識をつなげる問いの精選をする

2 「見通し」→「調べる・考える・表現する・交流する」→「振り返る」の3場面を設定した主体的な学び

主体的な学び

- ア. 調べたこと・考えたことを，根拠をもって表現する
 - ・「～です。わけは…。」（低学年）
 - ・「たとえば，…。(事実)」 「つまり，…。(解釈)」(中・高学年) を使って
- イ. 個→ペア・グループ→全体交流により，学びを深める
- ウ. 単元全体をまとめる上位概念を形成させる（振り返り）

<授業づくりの具体>

1 単元全体のゴールと，それを支える知識の取り出し

2 一時間ごとの問いの精選

- ・“なぜ，～だろう”（原因と結果を問う）
- ・“～とは何だろう”（社会事象の意味を問う）

3 学習課題のための資料，検証のための資料の選定

4 板書の構造化

<2017年度（平成29年度）予定>

- 1学期 社会科の授業のつくり方Ⅰ（理論研修）
授業研（1クラス）
- 夏季研修 社会科の授業のつくり方Ⅱ（理論研修）
演習
1学年1単元 授業計画・全体交流
- 2学期～ 夏季研修での授業研究をもとにした授業研・全体交流
- 3学期末 2017年度の成果と課題
次年度へ向けて